

大妻豊島岡会議 A 議場レビュー

1. 会議準備に関して

BG の読み込み、リサーチ、会議前の目標については、多くの大使が 3~5 という評価をつけていました。A 議場ということもあって、会議準備もしっかりしていた大使が多かったようです。

PPP をエッセイ方式にしたことに対しては、様々なご意見を頂きました。以下に一例を紹介いたします。

「自由に書ける」

「自国の一番主張したいことに焦点をあててアピールできる」

「何を書けばよいのかわからなかった（→設問が分かりにくかったのであれば申し訳ございません）」

「2 問の設問に対し回答欄が 1 つだったので自国の状況ばかり、あるいは政策ばかり書いている人がいた（→今後は設問ごとに字数制限を設けようと思います）」

「各国の政策の違いが一目瞭然でない（→今後は要約などをつけて簡単に違いが分かるようにすると良いかもしれません）」

「考えさせられるけど論点ごとの話がまとまりづらくなる」

「字数制限に苦労したが、まとまりのあるものができた」

「面白いが、初心者（後輩）は何を書けば良いのかわからなかったようで戸惑っていた」

この方式は大妻中高の関先生からご提案頂いたものですが、提案の意図としては、PPP を埋めることが形式的な作業にならずに済むように、エッセイを書くことを通して自国の状況や政策の伝え方を考えられるようにしたい、とのことでした。今回の PPP を通して、少しでも「文章」で自国の政策を伝えることを意識して頂ければ幸いです。

BG に関しては、読みやすかったという声もありましたが、「内容が薄かった」「論点やアウトオブアジェンダが分かりにくかった」というご意見を多く頂きました。特にアウトオブアジェンダに関しましては、指示が分かりにくく曖昧だったと反省しております。原本が 2017 年に作られたものなのですが、その時点からの修正ができていないことに対するご指摘も頂きました。

2. 会議本番での行動に関して

会議準備の評価が全体的に 3~5 に偏っていたのに比べ、会議行動については、全ての項目について 4~5 と評価している大使と、1~2 と評価している大使に分かれているような印象を受けました。

良かった点としては、「今までの会議では～できなかったけれど、今回は～できた」といったような、自身の成長に関するコメントが見受けられました。その他にも各大使が目標を達成できた喜びを書いてくださり、全てを紹介できないのは残念ですが、多かったコメントを掲載いたします。

「国益を守ることができた」（多数）「DRの作成に携わることができた」
「外交として積極的に動けた」「ペア間での協力ができた」
「グループのために動くことができた」「全体を見て動けた」
「スピーチが良くてよかった」「諦めずに最後まで粘ることができた」

悪かった点の欄にも、様々な意見が寄せられました。

「コンバイン後（会議後半）になるにつれて発言ができなくなった」（多数）
「ペア間の連携ができなかった」「自己アピールができなかった」
「時間意識が低かった」「リサーチ不足」「全体を見る余裕がなかった」
「国益を守れなかった（DRの文言を載せられなかった・変えられてしまった）」

特に、DRの提出時間が迫り、時間に余裕がなくなった時にどう行動するのかというのは、多くの大使にとって課題だったのではないかと思います。また、DR提出が惜しくも間に合わなかったグループの大使からは、それに対する反省も聞かれました。今回の会議では時間には厳しく、と指示されておりましたので、厳しい対応を取ってしまいましたが、ぜひ今後の会議ではDRを提出し、グループの意見を議場全体に共有できるように頑張りたいと思います。

すごいと感じた大使の欄で名前が多く挙がったのは、受賞された Republic of Korea, United Kingdom, Afghanistan, Belgium のほかに、Brazil, Syria, Sri Lanka, USA などでした。当日のレビューでもお伝えしました通り、賞の決定が非常に困難だったのですが、それだけ今回の会議は優秀な大使が多く、大使の皆様も色々なことを学べたのではないかと思います。

3. フロントからのフィードバック

この度は、BGやPPPまとめなどの事前準備、そして会議進行におきまして、フロントが多大なご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ございませんでした。フロント一同、反省しております。大使の皆様のご協力により、会議を無事終えられたことを御礼申し上げます。

その中で、フロントに関するお褒めの言葉も沢山頂き、本当に嬉しく、また有難く思っております。今回の経験を活かして成長できるよう、フロント一同精進いたします。

以下、議長・会議監督・秘書官それぞれからのコメントを掲載します。

議長

この度は大妻豊島岡会議にご参加いただき、ありがとうございました。

今回はこちらの準備不足により、進行がグダグダになってしまったことや、無駄な時間ができてしまったことなど、進行に支障をきたしてしまったことにお詫び申し上げます。

会議中気になったこととしては、スピーチ中の私語です。こちらからも何回も注意しましたが、それでも私語が目立っていたのは残念でした。レビューシートで幾らかの大使の方々にも注意され

ましたが、こちらもう少し注意すべきでしたし、大使の皆さんにも気をつけていただきたかったです。

最後に、今回はフロントの不手際が多々あったにも関わらず、温かいコメントを書いてくださった大使が多くいらしゃったことを大変嬉しく思います。本当にありがとうございました。

会議監督

皆さん、会議お疲れ様でした。

初めに、アウトオブアジェンダの基準が曖昧だった事により、会議前・会議中共に大使の皆様にご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。

会議行動について、今回は上級者議場であったこともあり非常に意識の高い議場でした。最初のアンモデからほとんどの国の大使が大きな声を上げて積極的にグループ形成をしていました。そこでも、どこかの国の大使が一強独裁という事はなく各大使が自国の政策を主張し、お互いの国益を尊重しつつ話を聴いている姿が印象に残りました。

背景や国益は異なれど今回の全ての国の目標は議題の通り「テロリズム廃絶」にあります。理想をいうとももちろんそれはコンセンサスに至る事でしたが序盤、コンバインの進みが手間取っていたように思います。やる事が多く色々な情報が飛び交っている中ですが、ペア間の情報共有や行動認知を徹底する事の重要性を再確認しました。

また、アンモデでの DR 説明の際に「説明しますのでよく聞いて下さい」と言って、今から話そうとしている大使に別の大使が話しかけ、スポンサー国が長いこと待っているという事もありました。そのような状況で、リーダー同士だけで話し合っていてグループのメンバーがおいていかれている中、3名程の大使さんが「円直しましょう！」と声を掛けているのを見て、私が初めて参加した会議でグループリーダーが事あるごとに何度も何度も円を直していた事を思い出し、初心に返った心地になりました。

アンモデの際、円が綺麗だともっと話したくなり、更にお互いの顔が見えるから他の人の話をしっかり聞きたくなるので、これからの会議でも綺麗な円は常に心掛けましょう！

秘書官

この度は大妻豊島岡会議にご参加頂きまして、誠にありがとうございました。

私個人の進行に関しましては、「タイマーの押し忘れ」「木槌の音が聞こえない」などのコメントを頂きました。大使の皆様にご不便をおかけしてしまったことをお詫び申し上げます。

また、最後に時間が足りなくなってしまった際、議長が進行に慣れていないということもあって私が代わりに会議を進めてしまったことに対し、「本来は議長が話すべきではないのか」「プロシージャに従っていないため最後の流れが分かりづらかった」といったご意見を頂きました。大学の施設をお借りしたこともあり、退館時間を遅らせるわけには行かなかったため、とりあえず時間内に終えるためにできる限りの対応を取らせて頂いたつもりではございますが、大使の皆様を困惑させることになってしまい、申し訳ございませんでした。

最後の投票のカウントの失敗なども含めて反省点ばかりですが、その中でも「時間内に会議を終わらせるためにあのような対応を取ったのは良かった」などと書いてくださった方や、フロント全

体に向けて好意的なコメントをくださった方もいらっしゃいました。本当にありがとうございました。

フロントとしては非常に改善点が多いですが、大使は優秀な方が多く、素晴らしい会議になったとのコメントも多く頂きました。この会議が、これからの皆様の模擬国連生活にとって少しでも意義のあるものになっていれば幸いです。

4. 頂いた質問について

大使の皆様がレビューシートに書いてくださった質問にお応えします。スペースの関係上、多かった質問、また今後の模擬国連会議に向けて知っておいて頂きたい質問のみにしか回答できておりませんが、ご了承ください。

- DRの説明は英語ではないのか

→DRの説明は公式討議ですので、英語で行うのが正式な形だそうですが、練習会ではすべての大使がDRの内容を正確に理解できるようにするため、日本語で行う場合もあるそうです。

- モデは英語ではないのか

→モデは議長が調整し進行をする会議なので Moderated という言葉がついていますが、コーカスというものの自体が非公式討議を指します。BGでもありました通り、今回の非公式討議は日本語ですので、モデも日本語になります。

- スピーチ後の拍手は禁止ではないのか、また途中で議長にその旨を伝えたのになぜその後のスピーチで拍手している大使を注意しなかったのか。

→関先生からご回答を頂きました。「会議によって禁止しているところもあるかもしれないが、国の代表者が speech して、それに敬意を示すことは国際会議では当たり前のことでもある。ただし、国力を誇示したり、相手をけなすことは国連の理念や趣旨に反するので、過度なものは避けるべき。その会議ごとのルールなどに従ってもらえればよい。」とのことでした。

5. 表彰について

閉会式の中で、表彰ペア及び表彰理由の発表を行いました。こちらでも公開したいと思います。

最優秀賞…Republic of Korea 大使

グループの中での仕切り方や政策説明の分かりやすさを高く評価しました。議題に関してもよくリサーチができており、自分の政策を説明するだけでなく、他国の政策にもきちんと理解を示すことができていたように感じました。

他のグループとのコンバイン交渉における行動も素晴らしく、自グループの政策を説明する際に、他グループのすべての大使とアイコンタクトを取り、全体での理解統一・意見共有に務めていた点や、政策のずれが生じたときに、リーダー国だけで話し合っ解決しようとするのではなく、

自分のグループの大使に細かく確認を取り、交渉の中印にいる国以外の国の大使にも気を配っていた点が素晴らしかったです。

グループの中心となって DR を作成し、可決させた会議成果はもちろんですが、会議行動全体を見ていて、最優秀賞にふさわしいと、フロントメンバー全員の見解が一致して受賞者に決定しました。おめでとうございます。

優秀賞…Afghanistan 大使

モデを有効活用しグループ内にとどまらず議場全体で存在感を発揮していました。モデでの進行やまとめ方も素晴らしかったですし、会議の成立に大きく貢献した大使だと思います。

優秀賞…United Kingdom 大使

会議の初めから、議論から取り残される大使がいないう、気を配っていたのが好印象でした。会議序盤から EU グループを上手にまとめ、韓国グループとのコンバインもスムーズだったと思います。

フロント賞…Belgium 大使

他の大使から提案された意見に対して、それをうのみにせずに疑問を呈して不明点を明らかにするなど、グループ内の議論を深め、また時にそれを分かりやすく整序していた点を評価しました。